

## 2019 年度 第1回新しい時代の学校経営研究会 報告

附属校教育研究・研修センター

2019 年 4 月 22 日(月)第 1 回新しい時代の学校経営研究会を、稲盛経営哲学研究センター高津正紀先生、川崎昭治先生をお招きし、朱雀 701 会議室で開催した。参加者は長岡京 3 名、宇治 2 名、慶祥 5 名、守山 2 名、小学校 3 名であった。以下、報告する。

### 1 内容

#### (1)本会の趣旨について

##### ①主体者意識

「倒産寸前の会社を立て直すために、社長として赴任しました。最初に何をしますか？」JAL の再建に携わった稲盛会長は、1カ月間、稲盛哲学・フィロソフィを来る日も来る日も社員に話し続けた。さて、会社を学校に直して、「新しい学校に、校長として赴任しました。最初に何をしますか」という問いに対して、稲盛会長のように1か月間、自分の哲学を話し続けられるだろうか。答えは NO である。JAL を再建させるために 1 カ月間フィロソフィについて語り続けたというやり方を真似しても、同じようにはできないという典型例だと思う。つまり、大切なのは誰が言うかということであり、その誰になるための人間力を鍛えていかなければならない。近い将来、現在の管理職が定年退職を迎えるにあたり、必ず新しい体制となる。そう考えた時に、いつまでも甘えていいのだろうか。年齢に関係なく、学校を動かすのだという気概を持って、教育活動に取り組む必要があるのではないか。

##### ②テーマ:「未来の生き方を Create する学校作り」

尖った生徒、尖った教育というが、教えている我々教師が尖っているだろうか。今までの過去の附属校の取り組みでは、修学旅行の復活を筆頭とした自治活動、日本を牽引する SSH や SGH など取り組み、IB 教育の実践、ICT 機器の活用など、まさに時代の先駆者として立命館がその役割を果たしてきた。その取り組みが当時の生徒の誇りとなり、以後の活動の支えとなった。

では、これからの時代の先駆けとなる教育とはいったいどのようなものか。これからの時代を生きる子どもたちの生き方はどうなのだろうか。そういった生き方を形成できるような学校作りをしていきたい。そのためにも、既成概念にとらわれず、今の教育で捨てるもの、違う職種から生かせるものを学んでいきたい。稲盛会長が言われる人生の方程式＝考え方×熱意×能力の「考え方」の部分はこの研究会でしっかりと練っていきたい。

##### ③ゴールセッティング

活動期間は 3 年間とする。1 年目は、人生哲学。個人で、自分の人生哲学＝生き方を高めていく時期とする。今の自分の教育活動をどのようにすれば子どもたちの生き方に影響を与えられるか。また自分自身の行動指針なども磨いていく時期とする。2 年目は、経営哲学。組織をどう高めるかが課題である。所属する学年、分掌などリーダーとしてどのように組織をビルドアップしていくか、その方法を研究する。そして、3 年目は学校経営。管理職になる、ならないに関係なく、自分の活動がどのように学校全体に影響を及ぼしていくかを研究する。視野を日本・世界に広げたマクロの視点を持ちつつ、学校現場をどうしていくかを考える。最終的には、それらの実践事例を1つにまとめ、他の附属校の先生方に還元できるようなものを作成する予定である。

## (2) 参加者より

最初に参加者が、自己紹介と参加の動機について語った。何人かから出てきた言葉は「危機感」。入試の状況も含め、今のままでいいのだろうか。この危機感を出発点にしている教員が多くいたのが印象的である。ただ単に自分の力量を伸ばしたいという教員は皆無であり、なんとか自分に力をつけて、子どもたちのために、そして学校のために頑張りたいという意思表示があった。

また新しいものに対する抵抗感という言葉に共感する教員も多かった。新たに何かをやるにしても、「今までこうだったから」ということで、それ以上進まないこともあるが、それも打破していきたいという気持ちを表していた。

その後、本会の趣旨に関する内容について、ディスカッションを進める。実践事例がいったいどのようなものをイメージしているのか、具体的にどのようなことをやっていくのかを具体例を挙げながら、話を進めていった。

## (3) 稲盛経営哲学研究センター研究コーディネーター 川崎昭治 先生より

まず自分自身がどんな学校をつくりたいのか。できる、できないではなく、また若いからというわけでもなく、自分事として考えてもらいたい。私も含め、過去に40代で校長を務めている先生は何人もいる。校長は50代後半の役割ではない。だからこそ、自分自身が主体者となって取り組んでももらいたい。先ほど先生方が危機感と言われていたが、自分の学校の志望者が増えて、うまく経営ができて、それで満足してもらってはいけな。もっと大きな視点で、日本という国の将来についての目線で取り組んでももらいたい。宇治で、スカラアスリートプログラムをやったのも、狙いがあった。イチロー選手の引退する日、多くの人が感動した。私も感動した。チームメイトが心の底からイチロー選手を尊敬しているのが分かった。会見でも、最後の1年があったから、今日があると言っている。試合に出られなくても、皆と同じように練習をし、準備をした。その姿に、チームメイトが尊敬の念を抱いた。そして、会見の言葉。アスリートにはそれだけの影響力がある。政治家が物を言っても、それほど世論を動かさない。しかし、トップアスリートが言った言葉には、世論を動かす大きな力がある。だから、スカラアスリートプログラムで、そんな生徒を育てたいと考えた。何のためにそのプロジェクトを行うのか、生徒をどう鍛えていくのか。そのときに「日本」というビジョンで考えてもらいたい。

## (4) 稲盛経営哲学研究センター客員教授 高津正紀 先生より

研究センターのミッションは、「稲盛経営哲学の普遍性と一般化」を明らかにしていくことです。実業界でまとめられた稲盛哲学が、業界を越えて教育分野においても有効であるのか、研究会を通して確認していきたいと考えています。また、稲盛さんも教育には大変高い関心を持っています。

本日、多くの先生方が現状に「危機感」を感じているとお話しになりました。研究会では、この危機感を背景に、稲盛哲学をただ単に知識として学ぶのではなく、現実の解決に向けて、どのように自分を変革し、行動や実践を行っていくのかを強く意識しながら進めていくことが重要と考えています。京セラでも盛和塾でも、稲盛さんが大切にしてくられた「現場主義」にもとづき、実践につながる学びを行っています。この研究会が、稲盛哲学を学んで終わりということではなく、各学校や教育現場で実践され、またその成果を最終的に事例集としてまとめられ、規範づくりを目指していかれるというのは、良い方法であると思います。

(この後、稲盛会長のことが分かる京セラ提供 DVD「敬天愛人」を18分程度視聴)

「敬天愛人」は、稲盛さんの根底にある思想です。「敬天」とは道理を守り、道理に従って物事を考え

るということであり、「愛人」とは、魂から発した優しい思いやりに満ちた心で人を愛さないさいということである。キリストはそれを「愛」、お釈迦様は「慈悲」と表現しています。創業当時、経営判断にいろいろと悩んでいた稲盛さんが、その判断基準を「人間として何が正しいのか」の一点に絞ると決意をした際に、改めて西郷南洲も「敬天愛人」で同じ考えであったと思ひ至り、確信を深めました。

この「敬天愛人」は京セラという企業の姿勢を示す「社是」になっています。京セラ社員は、「常に公明正大 謙虚な心で 仕事にあたり 天に敬い 人を愛し 仕事を愛し 会社を愛し 国を愛する心」と理解をしています。

この研究会では、今日に至る様々な状況のなかで稲盛さんが何を考え、どのように判断し行動してきたのか、稲盛哲学が構築されてきた背景を踏まえて、稲盛哲学の本質がしっかり理解できるように工夫をこらしたいと考えています。また、教材についても京セラ(株)稲盛ライブラリーの全面的な支援を得て、稲盛さんの人間的な魅力についても焦点をあてていきたいと考えています。

## 2 今後の日程(予定)

一学期： 4月 22日(月)      5月 27日(月)      6月 17日(月)      7月 8日(月)

夏休み： 8月 1日(木)

二学期： 9月 30日(月)      10月 21日(月)      11月 11日(月)      12月 23日(月)

三学期： 1月 27日(月)      2月 17日(月)      3月 16日(月)

※予定を変更する場合があります。

<記録・報告 新しい時代の学校経営研究会 事務局 小笹大道>

<編集 教育研究・研修センター研究部門 今宿純男>